

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001 - 222264

(P2001 - 222264A)

(43)公開日 平成13年8月17日(2001.8.17)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 9 G 3/36			G 0 9 G 3/36	
G 0 2 F 1/133	575		G 0 2 F 1/133	575
G 0 9 G 3/20	641		G 0 9 G 3/20	641 Q
H 0 4 N 5/202			H 0 4 N 5/202	
9/69			9/69	
審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10数)				

(21)出願番号 特願2000 - 35683(P2000 - 35683)

(22)出願日 平成12年2月8日(2000.2.8)

(71)出願人 000004695

株式会社日本自動車部品総合研究所
愛知県西尾市下羽角町岩谷14番地

(71)出願人 000004260

株式会社デンソー
愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地

(72)発明者 水谷 彰利

愛知県西尾市下羽角町岩谷14番地 株式会
社日本自動車部品総合研究所内

(74)代理人 100100022

弁理士 伊藤 洋二 (外 2 名)

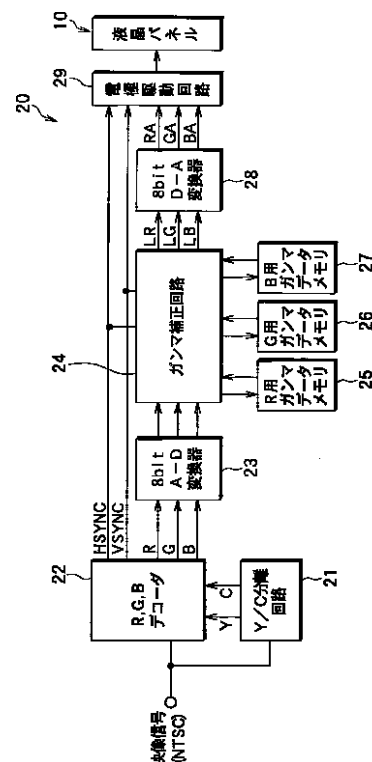
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 カラー液晶表示装置用ガンマ補正装置、ガンマ補正方法及びガンマ補正データ作成方法

(57)【要約】

【課題】 液晶パネルにおいて輝度特性の異なる R、G、B の各画素毎のガンマ補正データを用いてガンマ補正するようにしたカラー液晶表示装置用ガンマ補正装置、ガンマ補正方法及びガンマ補正データ作成方法を提供する。

【解決手段】 液晶パネルの R 画素、G 画素及び B 画素の各輝度特性に基づき作成した R 用、G 用及び B 用の各ガンマ補正データを R 用、G 用及び B 用の各ガンマデータメモリ 25 乃至 27 に記憶しておき、ガンマ補正回路 24 により映像信号を構成する R 信号、G 信号及び B 信号を各ガンマデータメモリ 25 乃至 27 の記憶データに基づきそれぞれガンマ補正する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 カラー液晶表示装置の液晶パネル（10）のマトリクス状の R 画素、G 画素及び B 画素の各輝度特性に基づき作成した R 用、G 用及び B 用のガンマ補正データを記憶する記憶手段（25 乃至 27）と、この記憶手段に記憶した R 用、G 用及び B 用の各ガンマ補正データに基づき、前記 R 画素、G 画素及び B 画素に付与すべき映像信号を構成する R 信号、G 信号及び B 信号をそれぞれ補正するガンマ補正手段（24）とを備えるカラー液晶表示装置用ガンマ補正装置。

【請求項 2】 カラー液晶表示装置の液晶パネル（10）のマトリクス状の R 画素、G 画素及び B 画素に付与すべき映像信号を構成する R 信号、G 信号及び B 信号を、前記 R 画素、G 画素及び B 画素の各輝度特性に基づき作成した R 用、G 用及び B 用のガンマ補正データにより補正するようにしたカラー液晶表示装置用ガンマ補正方法。

【請求項 3】 カラー液晶表示装置の液晶パネル（10）のマトリクス状の R 画素、G 画素及び B 画素の各輝度特性を測定し、前記 R 画素、G 画素及び B 画素の各測定輝度特性に基づき R 用、G 用及び B 用のガンマ補正データを作成するようにしたカラー液晶表示装置用ガンマ補正データ作成方法。

【請求項 4】 カラー液晶表示装置の液晶パネル（10）のマトリクス状の R 画素、G 画素及び B 画素の各輝度特性を、前記液晶パネルの全画素を複数の領域に分割して測定し、前記分割領域毎の前記 R 画素、G 画素及び B 画素の各輝度特性を平均化して前記 R 画素、G 画素及び B 画素の各平均輝度特性を作成し、これら各平均輝度特性に基づき R 用、G 用及び B 用のガンマ補正データを作成するようにしたカラー液晶表示装置用ガンマ補正データ作成方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、カラー液晶表示装置に採用されるガンマ補正装置、ガンマ補正方法及びガンマ補正データ作成方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】一般に、カラー液晶表示装置において、その液晶パネルの輝度特性（印加電圧－透過率特性）は、図 12 にて示すような非線形特性をもつことから、図 13 にて示すような上記輝度特性とは線対称となるガンマ補正データを用いて最終映像信号を線形特性になるようにガンマ補正補正している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、液晶パネルの種類によっては、液晶パネル内の各カラーフィルタが R、G、B の各画素毎に異なる特性を有したり、また、液晶パネルの表示面内で輝度特性が均一にならずばらつきを有するものがある。

【0004】従って、このような液晶パネルを有するカラー液晶表示装置において、1 種類のガンマ補正データを用いてガンマ補正するだけでは、液晶パネルの表示面全体の輝度特性が均一にならないという不具合がある。

【0005】そこで、本発明は、このようなことに対処するため、液晶パネルにおいて輝度特性の異なる R、G、B の各画素毎のガンマ補正データを用いてガンマ補正するようにしたカラー液晶表示装置用ガンマ補正装置、ガンマ補正方法及びガンマ補正データ作成方法を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記課題の解決にあたり、請求項 1 に記載の発明にかかるカラー液晶表示装置用ガンマ補正装置は、カラー液晶表示装置の液晶パネル（10）のマトリクス状の R 画素、G 画素及び B 画素の各輝度特性に基づき作成した R 用、G 用及び B 用のガンマ補正データを記憶する記憶手段（25 乃至 27）と、この記憶手段に記憶した R 用、G 用及び B 用の各ガンマ補正データに基づき、R 画素、G 画素及び B 画素に付与すべき映像信号を構成する R 信号、G 信号及び B 信号をそれぞれ補正するガンマ補正手段（24）とを備える。

【0007】このように、R 用、G 用及び B 用の各ガンマ補正データに基づき、R 画素、G 画素及び B 画素に付与すべき映像信号を構成する R 信号、G 信号及び B 信号をそれぞれガンマ補正する。従って、液晶パネルの輝度のばらつきが R 画素、G 画素及び B 画素の相互間にあっても、上記各ガンマ補正でもって液晶パネルの輝度の均一化が良好に確保され得る。

【0008】また、請求項 2 に記載の発明に係るカラー液晶表示装置用ガンマ補正方法では、カラー液晶表示装置の液晶パネル（10）のマトリクス状の R 画素、G 画素及び B 画素に付与すべき映像信号を構成する R 信号、G 信号及び B 信号を、R 画素、G 画素及び B 画素の各輝度特性に基づき作成した R 用、G 用及び B 用のガンマ補正データにより補正する。

【0009】これにより、液晶パネルの輝度のばらつきが R 画素、G 画素及び B 画素の相互間であっても、上記各ガンマ補正でもって液晶パネルの輝度の均一化が良好に確保され得る。

【0010】また、請求項 3 に記載の発明に係るカラー液晶表示装置用ガンマ補正データ作成方法は、カラー液晶表示装置の液晶パネル（10）のマトリクス状の R 画素、G 画素及び B 画素の各輝度特性を測定し、R 画素、G 画素及び B 画素の各測定輝度特性に基づき R 用、G 用及び B 用のガンマ補正データを作成する。

【0011】これにより、液晶パネルの輝度のばらつきが R 画素、G 画素及び B 画素の相互間であっても、液晶パネルの輝度の均一化が良好に確保されるガンマ補正が可能となる。

【0012】また、請求項 4 に記載の発明に係るカラー

10

30

40

50

液晶表示装置用ガンマ補正データ作成方法では、カラー液晶表示装置の液晶パネル(10)のマトリクス状のR画素、G画素及びB画素の各輝度特性を、液晶パネルの全画素を複数の領域に分割して測定し、分割領域毎のR画素、G画素及びB画素の各輝度特性を平均化してR画素、G画素及びB画素の各平均輝度特性を作成し、これら各平均輝度特性に基づきR用、G用及びB用のガンマ補正データを作成する。

【0013】これにより、液晶パネルの各分割領域間で輝度のばらつきがあっても、液晶パネルの輝度の均一化が良好に確保されるガンマ補正が容易に可能となる。

【0014】なお、上記各手段の括弧内の符号は、後述する実施形態に記載の具体的手段との対応関係を示すものである。

【0015】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施形態を図面により説明する。図1は本発明が適用されるカラー液晶表示装置の一実施形態を示している。このカラー液晶表示装置は、液晶パネル10と、この液晶パネル10を表示駆動する表示駆動回路20とにより構成されている。液晶パネル10は、マトリクス型フルカラー液晶パネルからなるもので、この液晶パネル10は、両電極基板の間に反強誘電性液晶を封入して構成されている。

【0016】また、液晶パネル10の両電極基板の一方は、ガラス基板と、このガラス基板の内表面に設けた複数条の走査電極と、これら各走査電極に沿って設けた複数条のカラーフィルタ(それぞれ、R、G、Bのカラーフィルタ層からなる)と、各走査電極及び各カラーフィルタを介しガラス基板の内表面に積層したオーバーコート及び配向膜とにより構成されている。他方の電極基板は、ガラス基板の内表面に上記複数条の走査電極と直角に位置するように設けた複数条の信号電極と、これら各信号電極を介し上記ガラス基板の内表面に積層した絶縁膜及び配向膜とにより構成されている。

【0017】なお、複数条の走査電極及び複数条の信号電極は、複数条のカラーフィルタ及び反強誘電性液晶と共に、マトリクス状の複数の画素を形成する。また、各画素は、各カラーフィルタのR、G、Bのカラーフィルタ層の各々に対応してR画素、G画素、B画素により構成されている。また、各信号電極は、R、G、Bの各カラーフィルタ層に対応する各信号電極(以下、R用、G用、B用の各信号電極という)に分割形成されている。

【0018】表示駆動回路20は、Y/C分離回路21と、同期分離機能付きR、G、Bデコーダ22とを備えている。Y/C分離回路21は、NTSC方式の映像信号(複合映像信号)から輝度信号(Y信号)及び色信号(C信号)を分離抽出してR、G、Bデコーダ22に出力する。

【0019】R、G、Bデコーダ22は、上記映像信号を入力されてこの映像信号をR信号、G信号、B信号に

変換して8ビットのA-D変換器23に出力するとともに、Y/C分離回路21のY信号から水平同期信号(HSYNC信号)及び垂直同期信号(VSYNC信号)を分離抽出して電極駆動回路29に出力する。なお、同期分離機能付きR、G、Bデコーダ22は、同期分離機能を備えていないR、G、Bデコーダ22と、これと別体の回路としての同期分離回路とにより構成してもよい。

【0020】A-D変換器23は、R、G、Bデコーダ22からのR信号、G信号、B信号をそれぞれ8ビットのRデジタルデータ、Gデジタルデータ及びBデジタルデータに変換してガンマ補正回路24に出力する。R、G、B用の各ガンマデータメモリ25、26、27は、共に、8ビットのデジタルデータを記憶するもので、R用ガンマデータメモリ25は、R用ガンマデータRd(図2(a)参照)をデジタルデータとして予め記憶している。このガンマデータメモリ25は、A-D変換器23からのRデジタルデータに基づきガンマ補正回路24によりR用ガンマデータRdを読み出される。

【0021】G用ガンマデータメモリ26は、G用ガンマデータGd(図2(b)参照)をデジタルデータとして予め記憶してなるもので、このガンマデータメモリ26は、A-D変換器23からのGデジタルデータに基づきガンマ補正回路24によりG用ガンマデータGdを読み出される。また、B用ガンマデータメモリ27は、B用ガンマデータBd(図2(c)参照)をデジタルデータとして予め記憶してなるもので、このガンマデータメモリ27は、A-D変換器23からのBデジタルデータに基づきガンマ補正回路24によりB用ガンマデータBdを読み出される。

【0022】ここで、R用ガンマデータRd、G用ガンマデータGd及びB用ガンマデータBdは、次のようにして求められている。まず、液晶パネル10の各R画素輝度と入力信号レベルとの関係、各G画素輝度と入力信号レベルとの関係及び各B画素輝度と入力信号レベルとの関係をイメージスキャナにより測定する。

【0023】また、上記入力信号レベルを符号Pで表すものとする。また、この入力信号レベルPは階段状に0乃至100(%)まで変化するものとする。また入力信号レベルPがレベルiのとき $P = P_i$ とし、 $i = 0$ 乃至100の範囲のいずれかとする。

【0024】そして、液晶パネル10の全R画素の輝度の平均輝度(以下、全R画素平均輝度という)を $K_R(P)$ とすると、この全R画素平均輝度 $K_R(P)$ は、次の数1の式により表される。

【0025】

【数1】

$$K_R(P) = (R_1 + R_2 + \dots + R_n) / n$$

この数1の式において、nは液晶パネル10のR画素の数を表す。また、 R_1 、 R_2 、 $\dots$ 、 R_n は、それぞれ、各R画素の輝度を表す。

【0026】そこで、各入力信号レベル P_i に対する全 R 画素平均輝度 $K_R(P_i)$ を数 1 の式に基づき $i = 0$ から $i = 100$ まで順次算出する。そして、これら各 R 画素平均輝度を入力信号レベルとの関係でプロットすることで、全 R 画素平均輝度 $K_R(P)$ と入力信号レベル P との関係が図 3 (a) にて示すように全 R 画素輝度データ R_{dd} として得られる。

【0027】また、液晶パネル 10 の全 G 画素の輝度の平均輝度（以下、全 G 画素平均輝度という）を $K_G(P)$ とすると、この全 G 画素平均輝度 $K_G(P)$ は、
10 次の数 2 の式により表される。

【0028】

【数 2】

$$K_G(P) = (G_1 + G_2 + \dots + G_n) / n$$

この数 2 の式において、 n は液晶パネル 10 の G 画素の数を表す。また、 G_1 、 G_2 、 $\dots$ 、 G_n は、それぞれ、各 G 画素の輝度を表す。

【0029】そこで、各入力信号レベル P_i に対する全 G 画素平均輝度 $K_G(P_i)$ を数 2 の式に基づき $i = 0$ から $i = 100$ まで順次算出する。そして、これら各 G 画素平均輝度を入力信号レベルとの関係でプロットすることで、全 G 画素平均輝度 $K_G(P)$ と入力信号レベル P との関係が図 3 (b) にて示すように全 G 画素輝度データ G_{dd} として得られる。

【0030】また、液晶パネル 10 の全 B 画素の輝度の平均輝度（以下、全 B 画素平均輝度という）を $K_B(P)$ とすると、この全 B 画素平均輝度 $K_B(P)$ は、
30 次の数 3 の式により表される。

【0031】

【数 3】

$$K_B(P) = (B_1 + B_2 + \dots + B_n) / n$$

この数 3 の式において、 n は液晶パネル 10 の B 画素の数を表す。また、 B_1 、 B_2 、 $\dots$ 、 B_n は、それぞれ、各 B 画素の輝度を表す。

【0032】そこで、各入力信号レベル P_i に対する全 B 画素平均輝度 $K_B(P_i)$ を数 3 の式に基づき $i = 0$ から $i = 100$ まで順次算出する。そして、これら各 B 画素平均輝度を入力信号レベルとの関係でプロットすることで、全 B 画素平均輝度 $K_B(P)$ と入力信号レベル P との関係が図 3 (c) にて示すように全 B 画素輝度データ B_{dd} として得られる。

【0033】また、このようにして測定した全 R 画素輝度データ R_{dd} 、全 G 画素輝度データ G_{dd} 及び全 B 画素輝度データ B_{dd} は、図 3 (a)、(b) 及び (c) にて示すように、勾配が 45° の直線 L に対し、略 S 字状に変化している。また、当該全 R 画素輝度データ R_{dd} 、全 G 画素輝度データ G_{dd} 及び全 B 画素輝度データ B_{dd} を直線 L に対しまとめて描くと、これら全 R 画素輝度データ R_{dd} 、全 G 画素輝度データ G_{dd} 及び全 B 画素輝度データ B_{dd} は、図 4 にて示すように、相互に
50

異なっている。これは、液晶パネル 10 における R、G、B の各カラーフィルタ層の間の膜厚の相違等に起因するものである。

【0034】そこで、ガンマ補正は、全 R 画素輝度データ R_{dd} 、全 G 画素輝度データ G_{dd} 及び全 B 画素輝度データ B_{dd} を共に直線 L に一致させるように補正するものであることから、これら全 R 画素輝度データ R_{dd} 、全 G 画素輝度データ G_{dd} 及び全 B 画素輝度データ B_{dd} が直線 L を基準に線対称となる各データを上述した R 用ガンマデータ R_d 、G 用ガンマデータ G_d 及び B 用ガンマデータ B_d として図 2 (a)、(b) 及び (c) として求めた。なお、これら R 用ガンマデータ R_d 、G 用ガンマデータ G_d 及び B 用ガンマデータ B_d を直線 L を基準にまとめて示すと、図 4 のようになる。

【0035】ガンマ補正回路 24 は、A - D 変換器 23 からの R デジタルデータに基づきガンマデータメモリ 25 から R 用ガンマデータ R_d を読み出し、このガンマデータ R_d に基づき R デジタルデータをガンマ補正して直線 L に対応するガンマ補正データ L_R として D - A 変換器 28 に出力する。また、ガンマ補正回路 24 は、A - D 変換器 23 からの G デジタルデータに基づきガンマデータメモリ 26 から G 用ガンマデータ G_d を読み出し、このガンマデータ G_d に基づき G デジタルデータをガンマ補正して直線 L に対応するガンマ補正データ L_G として D - A 変換器 28 に出力する。また、ガンマ補正回路 24 は、A - D 変換器 23 からの B デジタルデータに基づきガンマデータメモリ 27 から B 用ガンマデータ B_d を読み出し、このガンマデータ B_d に基づき B デジタルデータをガンマ補正して直線 L に対応するガンマ補正データ L_B として D - A 変換器 28 に出力する。

【0036】8 ビットの D - A 変換器 28 は、ガンマ補正回路 24 からの各ガンマ補正データ L_A 、 L_G 、 L_B をそれぞれ補正 R 信号、補正 G 信号及び補正 B 信号（以下、それぞれ、 R_A 補正信号、 G_A 補正信号及び B_A 補正信号という）にアナログ変換して電極駆動回路 29 に出力する。

【0037】この電極駆動回路 29 は、R、G、B デコード 22 からの水平同期信号及び垂直同期信号を受けて、液晶パネル 10 の複数条の走査電極を線順次走査して、この走査される走査電極に走査電圧を印加し、当該走査に同期して D - A 変換器 28 からの R_A 補正信号、 G_A 補正信号及び B_A 補正信号を信号電圧として複数条の信号電極（即ち、各複数条の R 用、G 用、B 用の各信号電極）に印加することで、液晶パネル 10 をマトリクス駆動表示させる。

【0038】このように構成した本第 1 実施形態において、R、G、B デコード 22 が、映像信号を R 信号、G 信号、B 信号に変換して A - D 変換器 23 に出力するとともに、Y / C 分離回路 21 からの Y 信号に基づき水平同期信号及び垂直同期信号を電極駆動回路 29 に入力す

る。

【0039】すると、当該R信号、G信号、B信号はA-D変換器23によりRデジタルデータ、Gデジタルデータ及びBデジタルデータに変換されてガンマ補正回路24に入力される。

【0040】これに伴い、ガンマ補正回路24は、A-D変換器23からのRデジタルデータに基づきガンマデータメモリ25からR用ガンマデータRdを読み出し、このガンマデータRdに基づきRデジタルデータをガンマ補正しガンマ補正データLRとしてD-A変換器28 10に出力する。また、ガンマ補正回路24は、A-D変換器23からのGデジタルデータに基づきガンマデータメモリ26からG用ガンマデータGdを読み出し、このガンマデータGdに基づきGデジタルデータをガンマ補正しガンマ補正データLGとしてD-A変換器28に出力し、また、A-D変換器23からのBデジタルデータに基づきガンマデータメモリ27からB用ガンマデータBdを読み出し、このガンマデータBdに基づきBデジタルデータをガンマ補正してガンマ補正データLBとしてD-A変換器28に出力する。

【0041】すると、各ガンマ補正データLR、LG、LBがD-A変換器28によりRA補正信号、GA補正信号及びBA補正信号に変換されて電極駆動回路29に入力される。

【0042】すると、電極駆動回路29は、R、G、Bデコード22からの水平同期信号及び垂直同期信号に基づき、液晶パネル10の複数条の走査電極を線順次走査して、この走査される走査電極に走査電圧を印加し、当該走査に同期してD-A変換器28からのRA補正信号、GA補正信号及びBA補正信号を信号電圧として各 30複数条のR用、G用、B用の各信号電極に印加することで、液晶パネル10をマトリクス駆動表示させる。

【0043】ここで、本第1実施形態では、上述のごとく、液晶パネルのR、G、Bの画素の組毎ではなく、R画素、G画素或いはB画素毎に求めた全R画素輝度データRdd、全G画素輝度データGdd或いは全B画素輝度データBddを、直線Lを基準に線対称となるR用ガンマデータRd、G用ガンマデータGd或いはB用ガンマデータBdとするようになされている。

【0044】このため、上記R用ガンマデータRd、G 40用ガンマデータGd或いはB用ガンマデータBdを用いて映像信号に対応するRデジタルデータ、Gデジタルデータ及びBデジタルデータをガンマ補正することとなる。従って、当該ガンマ補正が、液晶パネル10のR、G、Bの各カラーフィルタ層の厚さが相互に異なっている、最適になされ、その結果、液晶パネル10の表示画像の輝度が当該液晶パネル10の表示面全体に亘り均一になる。

(第2実施形態) 次に、本発明の第2実施形態につき図5乃至図7を参照して説明する。この第2実施形態で 50

は、上記第1実施形態にて述べたR用ガンマデータメモリ25には、R用ガンマデータRdに代えて、R用平均ガンマデータRdave(図7参照)が予め記憶されている。また、上記第1実施形態にて述べたG用ガンマデータメモリ26には、G用ガンマデータGdに代えて、G用平均ガンマデータGdaveが予め記憶され、上記第1実施形態にて述べたB用ガンマデータメモリ27には、B用ガンマデータBdに代えて、B用平均ガンマデータBdaveが予め記憶されている。

【0045】これら各平均ガンマデータRdave、Gdave及びBdaveは次のようにして求められている。まず、液晶パネル10の全画素を、R画素、G画素或いはB画素毎に、図5にて示すごとく領域乃至領域に4分割する。なお、図5では、便宜上、複数の図示縦横直線で形成される各四角形部分がそれぞれ画素(R画素、G画素或いはB画素)に相当するものとする。

【0046】そして、領域のR画素の輝度の平均輝度(以下、領域R画素平均輝度という)をKR1(P)とすると、数1の式の右辺において分母nを4/nとおき、分子のR画素の輝度の和は領域の全R画素の輝度の和として数1に基づき、領域R画素平均輝度KR1(P)を各入力信号レベルPiに対して算出する。この算出結果を入力信号レベルとの関係でプロットすることで、領域R画素平均輝度KR1(P)と入力信号レベルPとの関係が図6にて領域R画素平均輝度データR1ddaveとして得られる。

【0047】また、領域のR画素の輝度の平均輝度(以下、領域R画素平均輝度という)をKR2(P)とすると、数1の式の右辺において分母nを4/nとおき、分子のR画素の輝度の和は領域の全R画素の輝度の和として数1に基づき、領域R画素平均輝度KR2(P)を各入力信号レベルPiに対して算出する。この算出結果を入力信号レベルとの関係でプロットすることで、領域R画素平均輝度KR2(P)と入力信号レベルPとの関係が図6にて領域R画素平均輝度データR2ddaveとして得られる。

【0048】また、領域のR画素の輝度の平均輝度(以下、領域R画素平均輝度という)をKR3(P)とすると、数1の式の右辺において分母nを4/nとおき、分子のR画素の輝度の和は領域の全R画素の輝度の和として数1に基づき、領域R画素平均輝度KR3(P)を各入力信号レベルPiに対して算出する。この算出結果を入力信号レベルとの関係でプロットすることで、領域R画素平均輝度KR3(P)と入力信号レベルPとの関係が図6にて領域R画素平均輝度データR3ddaveとして得られる。

【0049】また、領域のR画素の輝度の平均輝度(以下、領域R画素平均輝度という)をKR4(P)とすると、数1の式の右辺において分母nを4/nとおき、分子のR画素の輝度の和は領域の全R画素の輝度

の和として数 1 に基づき、領域 R 画素平均輝度 $KR4(P)$ を各入力信号レベル P_i に対して算出する。この算出結果を入力信号レベルとの関係でプロットすることで、領域 R 画素平均輝度 $KR4(P)$ と入力信号レベル P との関係が図 6 にて 領域 R 画素平均輝度データ $R4ddave$ として得られる。

【0050】次に、入力信号レベル P_i 毎に 領域 R 画素平均輝度データ $R1ddave$ 乃至 領域 R 画素平均輝度データ $R4ddave$ がとる 領域 R 画素平均輝度 $KR1(P_i)$ 乃至 領域 R 画素平均輝度 $KR4(P_i)$ の算術平均値を求め、これら各算術平均値と入力信号レベル P との関係プロットすることで、図 7 にて示す R 用平均ガンマデータ $Rddave$ を求める。

【0051】そして、この R 用平均ガンマデータ $Rddave$ が直線 L を基準に線対称となるデータを上記 R 用平均ガンマデータ $Rdave$ として求める。

【0052】数 2 の式或いは数 3 の式を用い、同様にして G 用平均ガンマデータ $Gdave$ 或いは B 用平均ガンマデータ $Bdave$ を求める。その他の構成は上記第 1 実施形態と同様である。

【0053】このように構成した本第 2 実施形態では、液晶パネル 10 の両電極間のギャップのばらつき等により 領域乃至 領域の間の画素の輝度のばらつきが、R 画素、G 画素、B 画素毎にあっても、上述のように 領域乃至 領域の領域毎にかつ R 画素、G 画素、B 画素毎に求めた輝度の平均値から R 用、G 用、B 用の各平均ガンマデータを求めて各ガンマデータメモリ 25、26、27 に予め記憶し、これら記憶データに基づき A-D 変換器 23 からの R デジタルデータ、G デジタルデータ、B デジタルデータをガンマ補正回路 24 により補正して電極駆動回路 29 に出力される。

【0054】従って、液晶パネル 10 の両電極間のギャップのばらつき等により 領域乃至 領域の間の画素の輝度のばらつきが、R 画素、G 画素、B 画素毎にあっても、ガンマ補正が最適になされ、その結果、液晶パネル 10 の表示画像の輝度が当該液晶パネル 10 の表示面全体に亘り均一になる。

(第 3 実施形態) 次に、本発明の第 3 実施形態を図 8 乃至図 11 に基づき説明する。この第 3 実施形態では、上記第 1 実施形態にて述べたカラー液晶表示装置の輝度検査方法及びガンマデータメモリ 25、26、27 のデータ補正方法について提案されている。

【0055】上記輝度検査及びその結果輝度不良の場合のデータ補正等を効率よく行うために、一例として以下のようにする。カラー液晶表示装置の製造にあたり 1 ロットごとの各カラー液晶表示装置では液晶パネル 10 の輝度特性が相互にほぼ一致していることが経験上分かっている。この点を利用する。例えば、各ガンマメモリ 25 乃至 27 の記憶データとして予め基準の R 用、G 用、B 用ガンマデータを準備し、これら各データを、1 ロット

中の一つのカラー液晶表示装置の各ガンマメモリ 25 乃至 27 に書き込んで記憶させる。

【0056】その後、当該カラー液晶表示装置を作動させて液晶パネルの輝度のばらつきの有無を視認により判定する。この判定で良好とされる場合には、1 ロット中の残りのカラー液晶表示装置の各ガンマメモリ 25 乃至 27 にも上述と同様の基準データを書き込めばよい。

【0057】一方、上記判定で不良とされる場合には、図 8 にて示すような構成のもとに当該不良カラー液晶表示装置の液晶パネル 10 の輝度測定を次のようにして行う。但し、図 8 に示す信号電極駆動回路及び走査電極駆動回路は当該不良カラー液晶表示装置の電極駆動回路 29 に相当する。

【0058】まず、一次元用イメージスキャナ S を液晶パネル 10 の表示面上にて走査電極の長手方向 (実施形態 8 にて図示上下方向) に移動可能に信号電極の長手方向に平行となるように配置する。そして、図 8 のテスト信号発生回路により階段状テスト信号 (図 9 参照) を R 画素用として液晶パネル 10 の各信号電極に順次入力する。また、上記テスト信号発生回路により垂直同期信号及び水平同期信号を走査電極駆動回路及び信号電極駆動回路に入力する。これにより、液晶パネル 10 をマトリクス駆動する。

【0059】そして、図 10 の測定工程 S1 において、液晶パネル 10 の図示上側に位置する信号電極から下側の信号電極にかけて、信号電極毎に、テスト信号を階段状にレベル変化させつつ入力して信号電極に対応する各 R 画素の輝度をイメージスキャナ S により測定する。ついで、このように測定した各 R 画素の輝度を、測定工程 S2 (図 10 参照) にて、A-D 変換器 (図 8 参照) によりデジタル変換して R 用測定輝度メモリ (図 8 参照) に記憶する。なお、この R 用測定輝度メモリに記憶した全 R 画素の輝度と入力信号レベルとの関係は図 11 (a) にて示すようになる。なお、図 11 (a) にて符号 1、2、…、n は R 画素の番号を示す。

【0060】ついで、測定工程 S3 において、処理データ回路 (図 8 参照) により、n 個の R 画素の輝度の平均値を入力信号の各レベル毎に求め、全 R 画素の輝度についての平均輝度と入力信号レベルとの関係を示す R 用平均ガンマデータを求める (図 11 (b) 参照)。そして、測定工程 S4 において、上記処理データ回路でもって、上記 R 用平均ガンマデータに基づき直線 L に線対称な R 用ガンマ補正データを求め、R 用ガンマデータメモリ (図 8 参照) に測定工程 S5 において記憶する。これに伴い、ガンマデータ書き込み回路 (図 8 参照) により R 用ガンマデータメモリの記憶データを上記不良カラー液晶表示装置の R 用ガンマデータメモリ 25 に転送して書き込むことで記憶し直す。

【0061】同様に、上記テスト信号発生回路のテスト信号を G 画素用或いは B 画素用として液晶パネル 1

0 の各信号電極に順次入力する。そして、信号電極毎に、テスト信号を階段状にレベル変化させつつ入力して信号電極に対応する各 G 画素の輝度或いは各 B 画素の輝度をイメージスキャナ 5 により測定する。

【0062】ついで、このように測定した各 G 画素の輝度或いは各 B 画素の輝度を、上記 A - D 変換器（図 8 参照）によりデジタル変換して G 用測定輝度メモリ或いは B 用測定輝度メモリ（図 8 参照）に記憶する。そして、上記処理データ回路により、n 個の G 画素の輝度の平均値或いは n 個の B 画素の輝度の平均値を入力信号の各レベル毎に求め、全 G 画素の輝度或いは全 B 画素の輝度についての平均輝度と入力信号レベルとの関係を示す G 用平均ガンマデータ或いは B 用平均ガンマデータを求める。

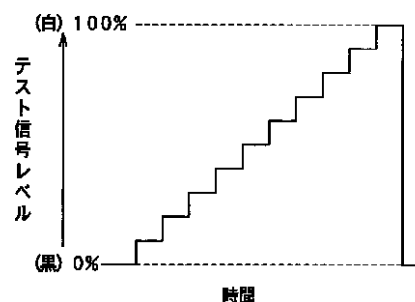
【0063】そして、上記処理データ回路でもって、上記 G 用平均ガンマデータ或いは B 用平均ガンマデータに基づき直線 L に線対称な G 用ガンマ補正データ或いは B 用ガンマ補正データを求め、G 用ガンマデータメモリ或いは B 用ガンマデータメモリ（図 8 参照）に記憶する。これに伴い、上記ガンマデータ書き込み回路により G 用ガンマデータメモリの記憶データ或いは B 用ガンマデータメモリの記憶データを上記不良カラー液晶表示装置の G 用ガンマデータメモリ 26 或いは B 用ガンマデータメモリ 27 に転送して書き込むことで記憶し直す。

【0064】このように、上記不良カラー液晶表示装置は、その各ガンマデータメモリ 25 乃至 27 の記憶データを書き直すことで、輝度特性の不良が是正され、不良ではなくなる。上記 1 ロットの残りのカラー液晶表示装置の各ガンマデータメモリ 25 乃至 27 には上記 R 用、G 用、B 用ガンマ補正データをそれぞれ書き込むことで輝度の良好な液晶パネル 10 を有するカラー液晶表示装置の製造が可能となる。

【0065】なお、本発明の実施にあたり、液晶パネルの液晶は反強誘電性液晶に限ることなく、強誘電性液晶等のスメクチック液晶その他の各種の液晶であってもよい。

【0066】また、本発明の実施にあたり、各ガンマデータメモリ 25、26、27 は、単一のメモリであってもよい。

【図 9】



*【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明に係るカラー液晶表示装置の一実施形態を示すブロック図である。

【図 2】(a)、(b)、(c) は、それぞれ、全 R 画素補正輝度、全 G 画素補正輝度、全 B 画素補正輝度と入力信号レベルとの関係を示すグラフである。

【図 3】(a)、(b)、(c) は、それぞれ、全 R 画素平均輝度、全 G 画素平均輝度、全 B 画素平均輝度と入力信号レベルとの関係を示すグラフである。

【図 4】輝度と入力信号レベルとの関係を図 3 の各全画素平均輝度及び各ガンマ補正輝度との関係において示す各グラフである。

【図 5】本発明の第 2 実施形態を示す液晶パネルの表示面図である。

【図 6】上記第 2 実施形態における 乃至 領域 R 画素平均輝度と入力信号レベルとの関係を示すグラフである。

【図 7】上記第 2 実施形態における R 画素平均輝度と入力信号レベルとの関係を示すグラフである。

【図 8】本発明の第 3 実施形態におけるカラー液晶表示装置の輝度補正を行うための回路図である。

【図 9】図 8 にて示すテスト信号のレベルを示すタイミングチャートである。

【図 10】上記第 3 実施形態における測定工程図である。

【図 11】(a)、(b)、(c) は、それぞれ、R 画素輝度、R 画素平均輝度、R 画素の平均輝度及び補正輝度と入力信号レベルとの関係を示すグラフである。

【図 12】従来のカラー液晶表示装置の液晶パネルの輝度と入力信号レベルとの関係を示すグラフである。

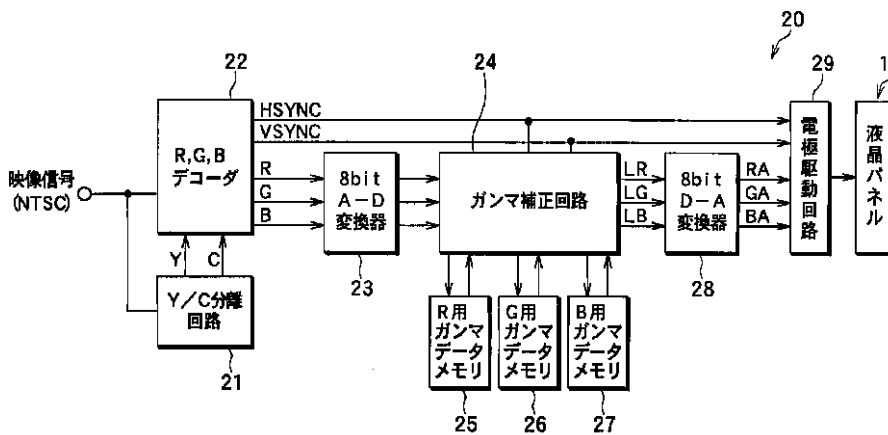
【図 13】従来のカラー液晶表示装置の液晶パネルの補正輝度と入力信号レベルとの関係を示すグラフである。

【符号の説明】

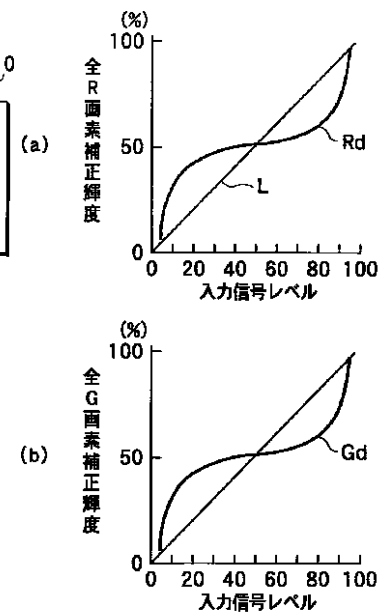
10 ... 液晶パネル、24 ... ガンマ補正回路、25 ... R 用ガンマデータメモリ、

26 ... G 用ガンマデータメモリ、27 ... B 用ガンマデータメモリ。

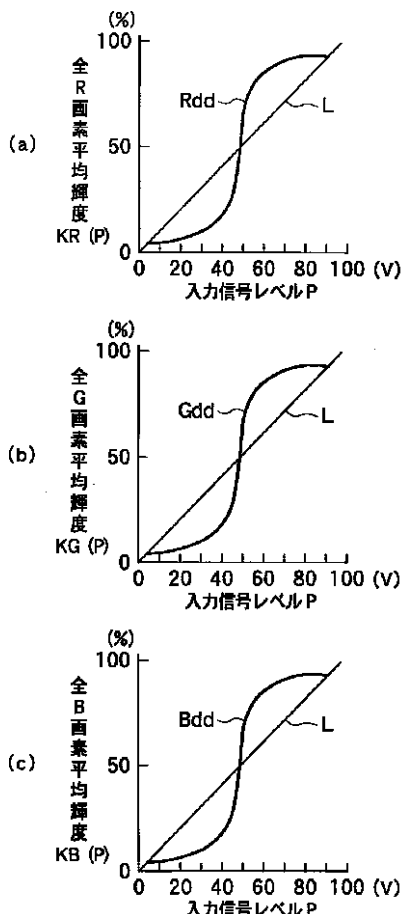
【図1】



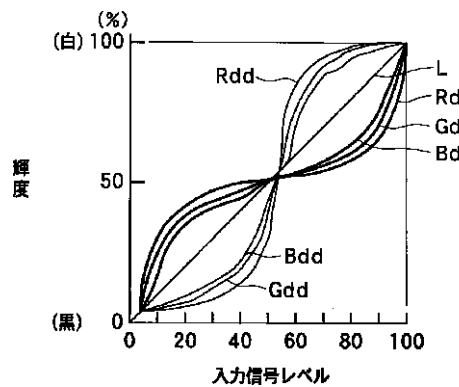
【図2】



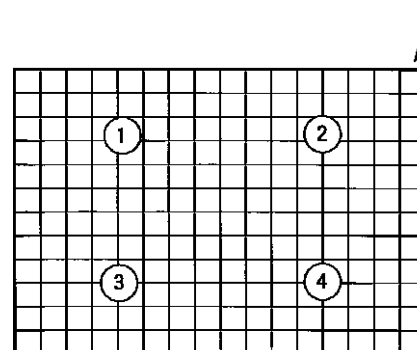
【図3】



【図4】



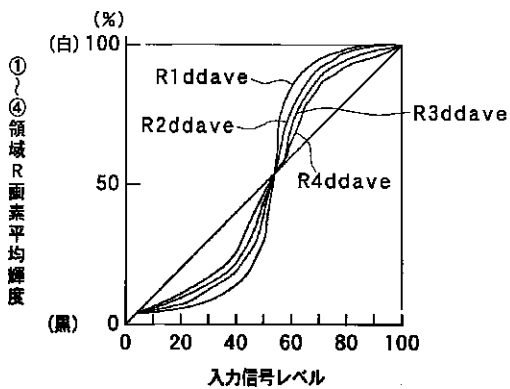
【図5】



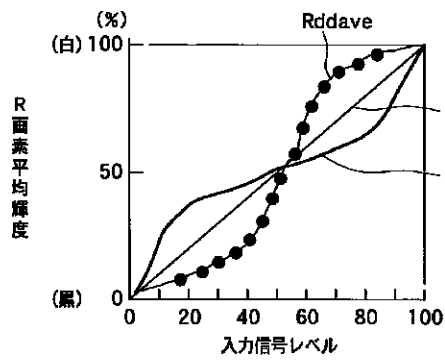
【図10】



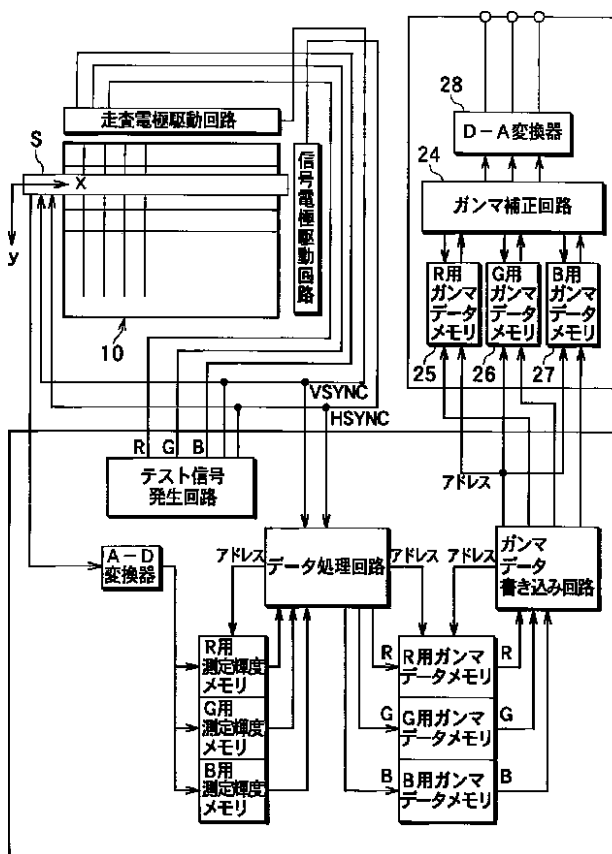
【図6】



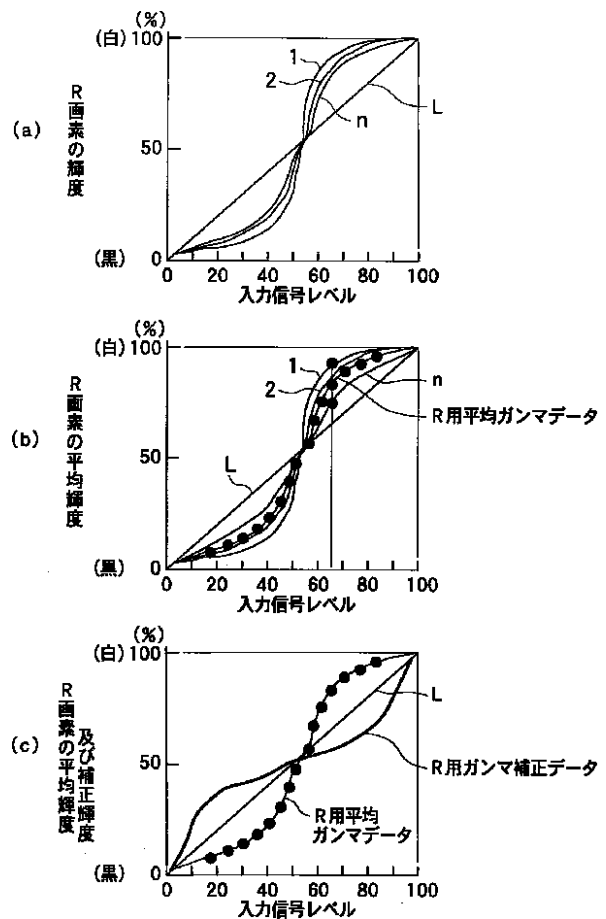
【図7】



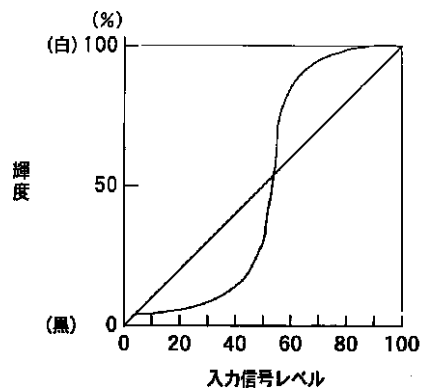
【図8】



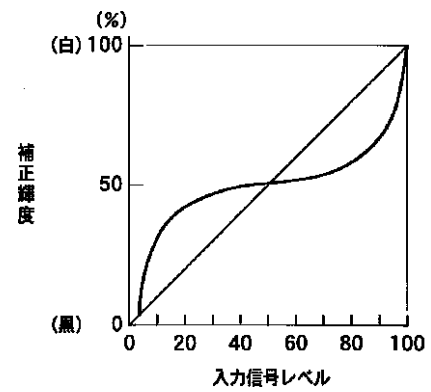
【図11】



【図 1 2】



【図 1 3】



フロントページの続き

(72)発明者 榊原 啓之
愛知県西尾市下羽角町岩谷14番地 株式会
社日本自動車部品総合研究所内

(72)発明者 早田 憲文
愛知県刈谷市昭和町 1 丁目 1 番地 株式会
社デンソー内

专利名称(译)	用于彩色液晶显示装置的伽玛校正装置，伽马校正方法和伽马校正数据产生方法		
公开(公告)号	JP2001222264A	公开(公告)日	2001-08-17
申请号	JP2000035683	申请日	2000-02-08
[标]申请(专利权)人(译)	日本电装株式会社		
申请(专利权)人(译)	日本汽车零部件研究院 Denso公司		
[标]发明人	水谷彰利 榊原啓之 早田憲文		
发明人	水谷 彰利 榊原 啓之 早田 憲文		
IPC分类号	G09G3/36 G02F1/133 G09G3/20 H04N5/202 H04N9/69		
FI分类号	G09G3/36 G02F1/133.575 G09G3/20.641.Q H04N5/202 H04N9/69		
F-TERM分类号	2H093/NA43 2H093/NC24 2H093/ND09 2H093/NF20 2H193/ZD32 2H193/ZQ26 5C006/AA01 5C006/AA22 5C006/AF13 5C006/AF46 5C006/AF81 5C006/AF82 5C006/BB11 5C006/BF08 5C006/BF26 5C006/FA18 5C006/FA22 5C006/FA56 5C021/PA76 5C021/PA78 5C021/PA85 5C021/PA86 5C021/RA07 5C021/XA34 5C066/AA03 5C066/AA15 5C066/BA20 5C066/CA05 5C066/CA17 5C066/DD07 5C066/DD08 5C066/EC05 5C066/GA01 5C066/GA13 5C066/GA14 5C066/GA21 5C066/GB01 5C066/HA03 5C066/KE05 5C066/KE09 5C066/KE19 5C066/KE20 5C066/KM13 5C066/LA02 5C080/AA10 5C080/BB05 5C080/CC03 5C080/DD03 5C080/EE28 5C080/GG08 5C080/JJ02 5C080/JJ05 5C080/JJ07		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

用于彩色液晶显示设备的伽马校正设备，伽马校正方法和伽马校正数据生成方法，用于使用伽马校正数据对液晶面板中具有不同亮度特性的R，G和B的每个像素执行伽马校正 提供。 解决方案：根据液晶面板的R，G和B像素各自的亮度特性创建的R，G和B伽玛校正数据存储在R，G和B伽玛数据存储器中。 伽马校正电路24基于存储在伽马数据存储器25至27中的数据对构成视频信号的R信号，G信号和B信号进行伽马校正。

